

地域共生Ⅱ

里山に暮らす（体験）

日時：平成20年10月5日（日） 13:00～15:00

講師：里山に暮らす方々

概況



「海上の里の暮らしを知る」ということで、以前から海上の里で生活し、現在は転居していますが農家として関わっていらっしゃる鈴木五男さんのお話を伺い、一緒に海上の里を巡りました。また、海上の森の会の藤野さんに海上の里の休憩施設である里山サテライトの古民家再生プロジェクトについての紹介をしていただきました。

【海上の里の生活】

私は昭和23年生まれで、当時海上の里には12軒の家があり、集落の同年代の子どもが10人くらいいた。基本的に子育ては野放しで、ご飯の時間に帰ってこなかったら、自分の食べる分は自分でなんとかするという、決して裕福な暮らしではなかった。里では水が来るところを田んぼに、来ないところを畑として利用していた。現金収入としては炭焼き、陶器作り用の薪、富士柿などをリヤカーで引っ張って大曾根まで売りに行ったこともあると聞いた。また、県有林の下刈りなど森林作業、焼き物関係の出稼ぎなどをしていた。農業としては田んぼで米（うるち米）を作っており、水が少ない土地柄もあり、水の取り合いで揉めたこともあった。そのような生活であったが、昭和32年の大雨や昭和34年の伊勢湾台風を契機としてそのほとんどが転出した。現在は、田畑があるので農作業を行っている。里山については色々な定義の仕方があると思うが、私は第一に暮らしがあって、そこに自然があって、里山であるというふうに思っている。

【里山サテライト 古民家再生プロジェクトについて】

ももとは赤津から海上の里に 90 年前に移築された古民家であり、家主が街に転出し、維持管理が困難になり取り壊すという話があったところ、市民団体が貴重な建物を保存したいという思いから、平成 15 年に古民家再生プロジェクトを立ち上げ、解体をおこなった。その後、県に要望を出し、協働という形で現在の里山サテライトとして再建された。里山文化を残す拠点施設として、収穫感謝祭や正月など年中行事もおこなっている。